

## ■講師プロフィール

くり き のぶ かず  
栗 城 史 多 氏 (登山家)



高校卒業後、ニートや引きこもり経験するが、無酸素登山へのチャレンジを機に「冒険の共有を目指し、多くの人がもっている心の壁を取り払い、一步踏み出す勇気を伝えること」を自らの冒険の使命とする。

現在、「夢の育て方」「限界の越え方」等をテーマで講演活動を行いながら、「冒険の共有」を目指す。

### 【職歴・経歴】

- ・1982年 北海道生まれ。
- ・大学山岳部に入部して2年後の2004年6月初の海外旅行で北米大陸最高峰の「マッキンリー」(6194m)を単独登頂。
- ・2005年1月 南米最高峰「アコンカグア」(ポーランド氷河)に単独登頂後、「山と地球を感じてみたい」と思い、6大陸最高峰を単独登頂。卒業後、2007年からはヒマラヤ8000m峰を目指すようになり、2007年5月、ヒマラヤ初遠征で世界第6位高峰「チョ・オユー」(8201m)の単独・無酸素登頂を果たす。その時からインターネットを通じての動画配信を行い、「冒険の共有」を目指すようになる。
- ・2008年10月 世界第8位高峰「マナスル」(8163m)で、日本人として初となる単独・無酸素登頂と、山頂直下からのスキー滑降に成功。
- ・2009年5月 世界第7位高峰「ダウラギリ」(8167m)の単独・無酸素登頂に成功し、6000m地点からインターネット中継も行う。
- ・2009年9月 「エベレスト」(8848m)のグレードクローアルからの単独・無酸素登頂とインターネット生中継を目指すのが、7950m近くで下山。
- ・2010年2月 アラスカ・チューガッチにてバックカントリー遠征。
- ・2010年5月 「アンナプルナ」(8091m)登頂を目指し、2度アタックするも残り400mのところまで下山。
- ・2010年9月 エベレスト(ネパール側)からのリベンジ登山を行うが、7750m地点で下山。
- ・2011年5月 シシヤパンマ南西壁に単独・無酸素登頂で挑戦。標高差2000m近くの氷壁(Corredor Gironecouloir)を登り、稜線に出たが、体調不良で7600m地点で下山。その後、別のルートから挑戦するが再度下山となった。

- 現在、全国で講演活動を行いながら、スキーと高所登山、そしてエベレストのインターネットライブ中継という新しい冒険を目指し突き進む。
- 座右の銘「限界も国境も自分が作った幻想である」
- 使命は「冒険の共有を目指し、多くの人がもっている心の壁を取り払い、一步踏み出す勇気を伝えること」